

広報

# しまだい

島根大学広報誌

Shimadai Magazine

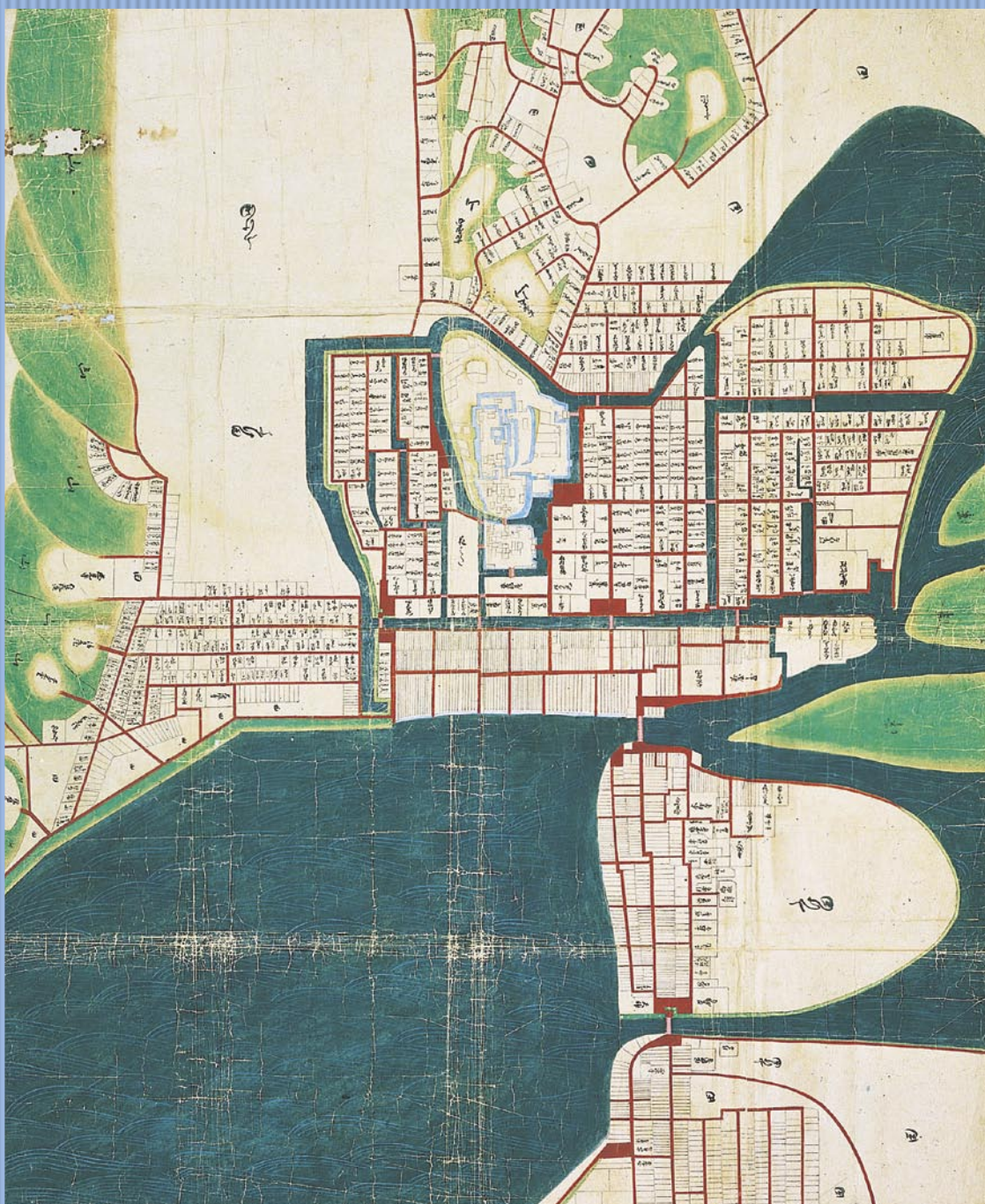
April 2005

Vol. **1** 創刊号

特集

法人化後  
1年

「夢のある新しい島根大学」を目指して





CONTENTS

■発刊に当たって

■法人化後 1 年  
「夢のある新しい島根大学」を目指して ..... 1

■連載

- 研究紹介 ..... 4
- 公開講座・公開授業 ..... 5
- 施設紹介 ..... 6
- 国際交流 ..... 7
- サークル紹介 ..... 8
- ちょっとサイエンス ..... 9
- 学内散歩 ..... 10

■お知らせ ..... 10

■編集後記 ..... 10

発刊にあたって

島根大学では、「地域とともに歩む大学」を理念・目標の一つに掲げています。そのためには、島根大学を理解していただくとともに、地域の皆様から島根大学に対して積極的なご意見をいただきたいと思っております。

この広報・広聴活動の一つとして、このたび「広報しまだい」を発刊することになりました。

この広報誌は、島根大学の教育・研究活動の状況、法人化に伴うさまざまな取り組み、学生の活動状況等についてお知らせす



表紙「堀尾時代松江城下図」  
(1620年～1633年頃、島根大学附属図書館本館蔵)

この絵図は、堀尾氏の時代のもので、松江城下町の建設(1611年)当初の城下町の様子が分かる絵図である。この「堀尾時代松江城下図」が知られる以前は、松江城下町は堀尾期には未完成で、後の京極氏や松平氏の手で逐次に充実・修補・拡大され、18世紀以降に完成したといわれてきたが、この絵図の出現によって、松江城下町がすでに堀尾期に完成していたことがわかったものである。堀尾氏が作った城下町松江は、家臣の屋敷配置、勢溜の設置、寺院の配置、道路網のあり方などから見て、実戦を想定しつつ軍事面にかなり力点を置いた合理的・計画的な城下町であり、まさに関ヶ原合戦と大坂の陣にはさまれた時期に建設された城下町にふさわしい都市であったことがわかるものである。なお、松江市は、全国の主要な城下町のなかでも、戦災等の被害を受けず、街路や土地区画がほとんど変わっていない城下町であり、現在でも城下町形成時の都市計画の姿を確認することができる。

るとともに、地域の皆様からお寄せいただいたご意見・ご質問等も掲載し、島根大学に關しての情報交換の場ともなりうるものにしたかと考えています。

今年三月には、新松江市、新出雲市が誕生し、ますますの発展が期待されていますが、島根大学は、大学の持っている知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献し、地域から信頼され、必要とされる大学となり、地域とともに発展する大学となることを目指しています。

(島根大学長 本田 雄二)





## ■法人化後一年

# 「夢のある新しい島根大学」 を目指して

平成十六年四月、島根大学は法人化しました。「国立大学法人」制度は、「大学ごとに法人化」し、大学の自律的な運営を確保すること、「民間的

発想」の管理運営手法を導入すること、「学外者の参画」による大学運営を制度化すること、「非公務員型」による弾力的な人事制度に移行すること、「第三者評価」の導入による事後チェック方式に移行すること、を骨子としています。国立大学の法人化は、まさに、我が国における国立大学始まって以

## 大学の社会的責任

島根大学長 本田 雄一

わが国の国立大学は国民に等しく高等教育の機会を保障するため、戦後、全国各地に設置されました。国土が狭く、天然資源に乏しい日本が敗戦の荒廃から立ち直り、世界の奇跡とまで言われた急速な復興を成し遂げた要因の一つが国民の教育水準の高さにあります。国立大学における高等教育が我が国の戦後復興に大きく与っていたことは疑問の余地がありません。今後、憲法が国民に保障する教育の機会均等を実現する国立大学の機能は変わらないと考えます。さらに、法人化後は、それぞれの大学が個性を明確にし、互いに切磋琢磨してより高度な社会貢献を実現することが求められます。法人制度の特徴を全面的に生かし、大学に期待される社会的役割を果たしていかなければならないと考えています。



国立大学法人のプレート設置

## 統合による新しい研究領域の創出

法人化に先立ち、平成一五年十月一日、学問分野を異にする大学が一体化することによって、新しい研究領域を創出し、教育体制を強化するため、島根大学と島根医科大学は統合し、新しい「島根大学」になりました。新生島根大学の使命は真理を探究





新島根大学開学1周年記念植樹

し、学問の継承発展を図り、島根から世界に情報を発信するとともに、地域社会にあつては「知」の拠点、「教育・文化」の中心として社会的責任を果たすことです。大学統合によって、これまで同一大学にはなかった医学分野と工学、生物学、農学、社会科学等の諸分野が各々の分野を超えて共同し、新しい研究課題や教育プログラムを実施する条件が整いました。医学と工学の連携によって、外科手術の高度化、精密化を進めることが可能になります。また、現在、急速に発展しつつあるナノテクノロ

ジー分野と医学の共同により、極めて効率的に薬剤を特定患部に到達させることが可能になり、副作用を最小限に抑え治療効果を高めるような治療方法が実現できるようになります。医学と農学、社会科学分野の連携によって、機能性食品の開発、生産、流通システムの確立に貢献し、地域の人々の健康増進だけでなく、中山間地域のような過疎高齢化が進む地域における産業振興にも役立つことが出来ます。さらに、医学と基礎生物学の連携は遺伝子治療の分野で、また、再生医療の分野等でも大きな成果が期待できます。

## 山陰法科大学院の設置

法人化と時を同じくして、島根大学には島根大学大学院法務研究科法曹養成専攻（通称・山陰法科大学院）が設置されました。山陰地域は法曹過疎地域とされ、国民の法の下における平等が十分には実現されていない現実があります。また、歴史的にも日本海をまたぐ海外との交易が盛んな地域であり、その活動に伴う様々な法的問題が起きています。海外との取引における知的資産の管理にまつわる種々の課題もその一つです。また、過疎、高齢化に伴う法的な問題も数多く指摘されています。にもか

かわらず、「社会の医者」と言われる法曹の人口は絶対的に不足しており、多くの人が法の恩恵を受けることが出来ないままです。これらの問題を解決するため、司法制度改革の柱の一つとして、法曹養成のための専門職大学院が制度化され、厳しい設置認可審査を経て、島根大学にも法科大学院が設置されました。法曹養成は医学部における医師養成と合わせ、高度専門職業人の養成において島根大学が社会の要請に応えられる十分な体制が整ったことを示すものです。



法務研究科のプレート設置



## 教育学部の統合再編

体験学修を柱とした  
実践的なカリキュラム  
による教員養成

さらに、教育学部は鳥取大学の地域教育科学部との統合再編により、山陰地域における教員の計画養成に責任を持つ唯一の学部として、教員養成に特化することになりました。犯罪の低年齢化、学級崩壊、不登校児童の増加等など、教育現場ではさまざまな問題が起きています。父母の教育責任、地域の教育力など、これらの問題には社会的な要因が深く関与していることも事実です。しかし、これらの問題の解決にとって、



初等中等教育のシステムが果たす役割が格段に大きいことは明らかです。中でも、直接児童生徒に接して教育を行う教員の使命は重大であるといわなければなりません。島根大学では千時間体験学修を柱とする教員養成の斬新なカリキュラムを構成し、しっかりとした教育スキルに裏打ちされた高いモチベーションを持つ教員を養成することを目指しています。

## 地域に根ざし、個性輝く 島根大学を目指して

これらの改革を通じて、首都圏から遠く離れ、しかも、県土の約八十五%が中山間地域であるという条件不利と見られる現状を逆バネとして、地域社会に欠かせない個性的な大学として発展させていきたいと考えています。教育・研究において、さらに社会貢献においても高く評価される「夢のある新しい島根大学」、「地域に根ざし、個性輝く島根大学」を実現し発展させたいと念願しています。

地域の皆様におかれましては、新生島根大学に対し、物心両面にわたるより一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。



島根県との包括的な連携に関する覚書の締結



# 研究紹介

## たばこ依存から見えてくる反応性の個人差

小箱から一本取り出し、カチツと火をつけ一服。この行動を一日二十回、一日も休むことなく何十年続けています、という愛煙家の方、結構いらつしやいます。仕事は休みが必要で、お酒は時々休肝日を設けているけど、タバコは体調悪くても、寒い外に出ても吸いたい。お金もかかるし、体によくない、とわかっていてもやはり吸いたい。これが依存なのです。食べるとか、眠るとか、生きていくために不可欠な行動以外で、これほど律儀に続けることが出来る行動は他にありませんか？

一方、格好よくタバコを吸おうにも、一本のタバコで気分が悪くなるような、喫煙と無縁の人も多くいます。ヘビースモーカーで元気に長生きする人もいれば、若くて癌等で亡くなる人がいます。この個人差は一体何なのでしょう。生まれつきの体質と生活習慣が個人差に大きく関わっているとされていますが、詳細は説明されていません。理性ある人間の行動パターンを大

きく変えてしまうタバコ依存の背景と飲酒・食習慣・コーヒー・運動・ストレス等の生活習慣は複雑にからまっています。これらの要因と疾病・個人の反応性に関して、体内動態や免疫系遺伝素因等を総合的に解析することにより研究を進めています。

一吸いに至福の喜びの愛煙家から、その喜びを取り上げるのは酷な気もしますが、アメリカでは家でのタバコで解雇する企業が出てくるほど厳しい時代になってきました。タバコをやめたいと思われている方は、タバコ依存治療のための専門外来を受診されることをお勧めします。島根大学病院の「禁煙外来」は、医学的根拠に基づいて「確実」「楽しく」「薬」に卒業できるような週末曜日午後、完全予約制です。

〒085-3120 島根県松江市  
 地域医療連携センター  
 (医学部) 法医学講座 稗田洋子



担当の磯部先生(左)と筆者

## 教育と2つの研究

島根大学に二〇〇四年四月に日本型の法科大学院(ロースクール)が誕生した。アメリカ合衆国のロースクールをモデルにした法曹(弁護士、裁判官、検察官)を養成する教育機関である。正式名称は、「大学院法務研究科法曹養成専攻」と大変に堅苦しいが、通称「山陰法科大学院」と、文字通り、島根県、鳥取県など山陰地域に深く根ざした法曹養成を謳っている。法科大学院は、法曹という高度に専門的な実務の職業人を養成する博士課程であり、教育機関としての役割は大きい。

いったん法科大学院の教員として加われば、自分の専門研究はできなくなるのではないかと。こんな素朴な疑問が、法科大学院に加わろうとした、ほとんどの教員の脳裏をかすめてきた。研究の蓄積や裏づけのない教育は考えられないというのが正論ではあるが、それはいつのことかというのが本音であった。アメリカのロースクールの教員が以下で見える多面的な「研究」をどうやって実現できているのか、とても信じられないというのが実情なのである。

現在、研究の課題は試行錯誤が続いている。そして、これまでの研究の概念を大きく変える事態が生まれている。これまでの教員の研究は、社会科学分野である法学の専門分野が主たるものであり、社会と法、法規範のあり方を探求するものであった。これに新たに加わった法科大学院の教員の研



右「改正刑法仮案成立過程の研究」  
 左「疫学的因果関係の研究」

究対象は、法科大学院生に対する「教育方法」なのである。法曹養成機関において国民の社会生活上の医師として「専門的資質・能力の修得と、かけがえない人生を生きる人々の喜びや悲しみに対して深く共感しうる豊かな人間性の涵養、向上を図る」(司法制度改革審・意見書)ことを教育場面ににおいてどのように実現するのかについて実践的な研究をしようというものである。アメリカでは、このロースクールにおける教育に関する全国学会も活動が盛んで、学会誌もある。

こんな創設期の二〇〇四年にも、従来の専門研究の成果は、本研究科教授の二つの著書、林弘正『改正刑法仮案成立過程の研究』(成文堂)、山口龍之『疫学的因果関係の研究』(信山社)として公刊された。

今後、教育方法の「研究」の成果を紹介できる日を楽しみにしている。教育と研究は、今後、きっと教育と二つの研究として発展するものと期待している。これは法科大学院の教員だけに巡ってきた問題でもないようである。

(法務研究科 三宅孝之)

# 公開講座 公開授業

## 公開講座

島根大学では、生涯学習教育研究センターが中心となり、地域の皆様に生涯学習の機会を提供しています。平成十七年度は、次の講座が開設されます。



水泳教室



パソコン教室

- 前期
  - 日本の自然災害
  - 歴史学概論
  - 木材加工概論
  - 日本人の宗教と死生観
  - 木材加工実習Ⅲ
  - 汽水域の科学（基礎編）
  - 西洋史概論Ⅰ
  - 木材加工実習Ⅰ
  - 自然地理学Ⅰ
  - 保育学
  - 古文書学Ⅰ
  - ユーラシアの文化交流
  - 近現代の山陰
  - 現代史概説
- 後期
  - 歴史のなかの民族Ⅱ
  - 江戸の芸能と文化



公開講座



## 公開授業

島根大学で通常、学生を対象に開講されている正規授業の一部を公開し、皆様の生涯学習に役立てていただこうというものです。平成十七年度は次の授業が公開されます。

- 農作業で旬を感じよう！
- ブルーベリーの育て方・楽しみ方
- 子供硬式テニス教室Ⅰ・Ⅱ
- 硬式テニス教室中・上級Ⅰ・Ⅱ
- 暮らしを考える
  - 災害・防災と科学 —
- 宍道湖・中海の賢明な利用を語る
- 泳げない子の水泳教室
- 少しだけ泳げる子の水泳教室
- 理科実験講座「身の回りのものを拡大して見てみよう」
- デジタルカメラでももしろ実験
- 遺伝子研究への扉 大腸菌が光った！—君にもできる遺伝子組換え—
- 電気のおもしろ実験・工作
- 入門から応用までのEXCEL
- 松江地域における国際交流の現状と未来

- 初心者硬式テニス教室
- 楽しいイモ掘り
- 体験島根の科学
  - おもしろい科学のはなし2 —
- 暮らしを創る木工教室
- 味わって考える食と環境
  - (炭焼きとパン焼き)
- 汽水域の科学（応用編）
- 自然地理学Ⅱ
- プレートテクトニクス
- 古文書学Ⅱ
- 木材加工実習Ⅱ
- 歴史のなかの民族Ⅰ
- 数の世界

なお、開設時期につきましては、決定しだい、本学ホームページにてお知らせします。また、受講手続き等に関する内容につきましては、次の担当係までお尋ねください。

島根大学社会・国際連携課生涯学習係 TEL.0852-32-9757



# 島根大学教育学部附属小学校

## 施設紹介

### 本校の特色

① 教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、初等教育の理論と実践に関する研究、並びにその実験・実証を行う。

- 各教科・領域教育の場（全十八クラス）
- 複式教育の場（複式学級低・中高の三クラス）
- 特殊教育の場（特殊学級低・中高の三クラス）

② 教育学部の計画のもとに、学生が教育実習を行う。



③ 研究成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力し、小学校教育の進展に寄与する。

- 第五十二回研究協議発表会
- 第三十五回複式教育を語る会
- 特別支援教育を語る会
- 教科部主催授業研究会
- その他（県内・外における各種研修会に講師等で参加）など

- 学校教育実習Ⅰ
- 実地研究Ⅰ（授業参観が中心）
- 基礎実習Ⅰ（学級の活動への参加が中心）
- 基礎実習Ⅱ（授業構想・構成・実践が中心）
- 副免・応用実習（授業構想・構成・実践が中心）



## 特色ある学校行事

● 三つの集団宿泊学習



6年「修学旅行」



5年「臨海学校」



4年「林間学校」

● 全校での活動



「音楽会」



体育会



全活「夏祭り」



## 釜山教育大学校との交流

—韓国短期研修に参加して—

教育学部では三月八日から十三日まで、韓国・釜山教育大学校（以下、釜山教大）において短期研修を実施し、



学部生、教育学研究科大学院生合わせて十二名、引率教員二名が参加しました。この研修は、教育学部が今年度から釜山教大と共催で新たに始めた学生の相互交流の一環です。

教育学部と釜山教大は一九九〇年の交流協定締結以来、さまざまな学術・教育交流を重ねてきました。今年度からは特に国際交流担当プロジェクトが中心となり、短期研修という形での学生交流へと拡大、発展させようと計画し、釜山教大の全面的な協力を得て実現の運びとなりました。早速、初年度に当たる今年度は教育学部から学生が釜山教大を訪問し、五泊六日の日程でさまざまな韓国文化体験プログラムや交流活動を行いました。

釜山教大の先生方による韓国の古典文学、演劇、伝統音楽、宗教、伝統行



附設初等学校コンピュータールーム

事などをテーマにした特別講義の受講をはじめ、テコンドーの演習や韓国伝統楽器のワークショップなど、韓国の歴史や文化を肌で体験できる多彩なプログラムをこなしました。また、同大附設初等学校視察では、韓国の子どもたちとふれあひながら、韓国の初等教育について多くの情報を得ることができました。

この間、参加学生には釜山教大の学生がグループとなって行動を共にしてくれました。うち一晩は同大の学生の自宅でホームステイをし、彼らと寝食を共にすることで、多少のカルチャーショックを受けながらもスムーズに韓国の空気になじんだようでした。言葉の壁はありますが、互いに覚えてたの韓国語や日本語、そして五感をフルに使ってコミュニケーションをとる中で、確実に心に通じ合うものが芽生えたように感じます。最終日には、学生同士がひざをつき合わせ、討論、歓談をし、名残惜しいひとときを過ごしました。

今年の十二月、今度は私たちが釜山教大の学生を迎えることとなります。この研修がより一層充実したものとなるよう釜山教大と連携しつつプログラムの開発を進めるとともに、今回参加した学生が日韓友好、相互理解の懸け橋となって交流の輪を拡げてくれることを期待しているところです。



韓国伝統楽器のワークショップ



テコンドー演習

（教育学部 藤井浩基・教育学部国際交流担当プロジェクト委員として引率）



# サークル紹介



## 馬術部

馬の暖かさ、かわいらしきは、人を癒す力をもっています。

私たち島根大学医学部馬術部は、水士を中心に部活動を行っています。馬も人間と同じように食事等の生活をしなければなりません。そのため、毎日の世話が必要です。でも「馬に乗せてもらっているのだから、世話をするのはあたりまえ」と思って、みんなが力を合わせているので、苦ではありませぬ。それに馬たちのなんともいえない暖かさ、かわいらしさは人を癒す力を

持っていて、不思議と力がわいてきます。

春夏には中・四国の馬術大会があり、みんなりぼんを目指して日々練習に励んでいます。決められた通りに馬を動かしたり、障害を飛んだり、とても楽しく、うまくいくとたいへん気持ちがいいです。部員はみんな仲が良く、力を合わせてがんばりますよ！こんな馬術部は今も仲間を募っています。ここでしかできない経験を

いっしょにしましょう！  
（馬術部 医学部二年 辻佳穂里）



## 水泳部

40数年受け継がれてきた寒中水泳  
今回は参加者全員完泳しました。



種目で入賞することができました。また、インカレには一人が二種目に出場することができました。次のシーズンではさらに良い結果を残していきたいです。

シーズンが終わり、年が明けたら四十数年受け継がれてきた寒中水泳を行います。水温・気温一〇度以下の中、大橋川を横断するこの行事は一年の中で最も辛く気合いがいります。今回は参加者全員完泳することができ、この勢いで来シーズンも全力を尽くし頑張りたいと思っています。

今年の六月に松江の県立プールで中四国学生水泳選手権大会が行われる予定です。良い大会ができるよう私達水泳部は頑張っていくので、応援よろしくお願ひいたします。

（水泳部  
主将 島山晋平）

「水泳部」はたくさん先輩方が作り上げてきた伝統のある部です。私たち水泳部はシーズンでない冬の時期も週四回の部活動を行っており、その内二回は陸トレ、残りの二回は県立プールで泳いで頑張っています。シーズンは六月から始まり、週一回のペースで試合が行われるため、三月頃から本格的に泳いでいます。このように私たちは毎年良い結果を残すため一年を通して練習に励んでいます。

昨シーズンでは、中四国大会で男女ともに団体で八位以内に入賞するなど良い結果を残すことができました。また八月に行われた全国国公立大会では四人が七種目に出場し、女子二人が四





# ちょっとサイエンス

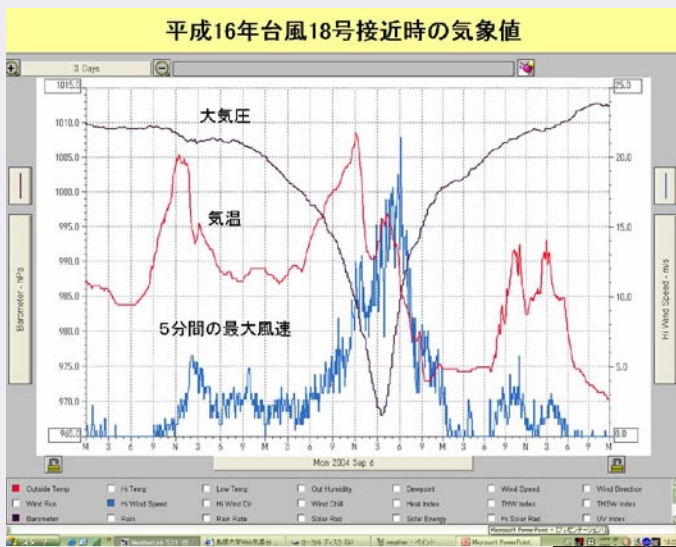
## 生物資源科学部 Web 気象台のご紹介



「今日はとっても寒いなく今、外は何度なんだろう？」

そんな時には、これを見れば大丈夫。島根大学生物資源科学部では、気温だけでなく非常に多くの気象要素をインターネットや携帯電話を利用して、とても簡単にリアルタイムで確認できる「生物資源科学部 Web 気象台」を運用しています。これは屋外の気象センサーが測定した数々の気象値を自動的に収集し、五分ごとに最新の情報をインターネット上に公開するシステムです。

Web 気象台ホームページは、多くのグラフを含むビジュアルな構成となっており、現在の気象値だけでなく過去のデータも閲覧・利用することができます。一方、携帯・モバイルサイ



トは文字情報により、非常に手軽に現在の気象状態を確認することが可能です。一例に、昨年の九月七日に松江に最接近した台風十八号の気象データを見てください。

台風の接近にともなって温かい空気が流れ込むとともに大気圧が約九六八ヘクトパスカルまで急速に低下し、最大風速は台風の中心が通過した少し後にピークに達していたことがよくわかります。ウェブサイトでは「これまでの気象値」のページを開くと、過去一年間と一週間のグラフが常に表示されますので、気象の変化が一目瞭然に理解できます。

生物資源科学部では Web 気象台の情報を教育・研究に利用するだけでなく、省エネルギー効果の検証にも活用しています。お子様と一緒に気象の変化を学んだり、農作物の管理に役立てるなど地域の身近な気象の指標としてご利用いただければと思います。

生物資源科学部 Web 気象台ホームページ  
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/weather/station/index.html>

携帯・モバイルサイト  
[http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/weather/i/Index\\_i.html](http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/weather/i/Index_i.html) (大文字に注意)

## 旧制松江高等学校記念碑



月に旧制松江高等学校創立八十周年を記念して建立されたもの。

碑名書は金築 修氏（元島根大  
学学長、本学名誉教授、第二十一  
期文乙）、デザインは倉澤 實氏  
（元教育学部教授、本学名誉教授）  
によるものである。

その他、旧制松江高等学校の  
ものが多く残されているが、松江  
キャンパス正門の門柱も旧制松江  
高等学校で使用されていたものを  
引き継いでいるものである。

両記念碑は、松江キャンパスの  
本部棟東側にある。いずれも旧制  
松江高等学校の同窓会により建立  
されたものである。

右側の記念碑は、昭和三十六年  
五月に旧制松江高等学校創立四十  
周年を記念して建立されたもの。

石版には「青春の歌」の一節が  
刻まれている。この「青春の歌」  
は、設立当時松江高等学校の校歌  
となっていたものである。

左側の記念碑は、平成十二年四



### 投稿のお願い

「広報 しまだい」は、島根大学と  
地域の方々との相互理解を大きな目  
的としています。学内から地域に情  
報を発信してほしいこと、地域の方々  
からの島根大学に関する話題、島根  
大学に対する要望、その他ご意見  
ご質問など気軽にお寄せください。  
今号は創刊号のために、読者の皆様  
からの声を掲載できませんでしたが、  
次号から「声の広場」を設け、地域  
の方々の声を掲載したいと考えてい  
ます。ご投稿をお待ちしています。

投稿先 〒690-8504 松江  
市西川津町1060  
島根大学広報・情報課広報・情報公  
関係気付 島根大学広報誌編集専門  
部会 あて

Fax:0852-32-6034  
E-mail:isy-bunsyo@in.shimane-u.ac.jp

### お知らせ

#### 平成17年4月以降の予定

- 4月7日 入学式
- 4月11日 前期授業開始
- 7月22日 前期授業終了
- 8月初旬 オープンキャンパス(予定)
- 9月2～4日 中国五大学学生競技大会  
(夏季大会)
- 10月1日 開学記念日
- 10月7～10日 大学祭

### 編集後記

二〇〇三年七月にLa・ve最終  
号を発行して以来、滞っておりま  
した広報誌を地域の皆様に親しま  
れている名称「しまだい」をタイ  
トルにして新たに発行する運びと  
なりました。この一年半の間に島  
根大学は島根医科大学と統合し、  
昨年四月からは国立大学法人とし  
て新たなスタートをしました。新  
たな大学にはさまざまな期待や要  
望が寄せられる中で、地域との連  
携が最大の課題であります。その  
期待に応えられるように我々はよ  
り一層の努力を行っていく覚悟で  
おります。

本創刊号では、国立大学法人と  
なって一年を経過した島根大学が  
どのように変わったかを集めた  
しました。表紙では島根大学に所  
蔵されながら日頃皆様の目にふれ  
る機会のない資料を掲載し、紹介  
していく予定です。これからは年  
二回の予定で、広報「しまだい」  
を発行し、地域の皆様へ島根大学  
の情報を発信してまいりますので、  
今まで以上にご支援、ご理解をお  
願ひいたします。

また、地域の皆様からの、島根  
大学に対するご要望・ご意見を掲  
載するコーナーを設けますので、  
よりすばらしい「島根大学」にす  
るためにもふるってご寄稿をお願  
ひいたします。  
(片桐成夫)